



見頃の薬用植物

アルカロイド含有有毒植物のベラドンナも、虫に食われて穴だらけ。

■ベラドンナ

Atropa belladonna

生薬名：ベラドンナ根
薬用部位：根
薬効：鎮痛、鎮痙



アルカロイド成分を含む有毒植物。ベラドンナエキスは鼻炎用内服薬や胃腸薬など様々な医薬品に使われている。西洋では古くから、魔女が使う毒草とされ、「魔女の草」とも呼ばれていた。ベラドンナの名は、イタリア語で“美しい淑女”という意味。16世紀頃、ヨーロッパの貴婦人の間で葉汁を薄めて眼に差すと瞳孔が散大して輝くような美しい瞳に見えると考えられ、美容のひとつとして流行した。近縁種にハシリドコロ（ロートコン）、ダツラ（曼陀羅華・チョウセンアサガオ）などがある。

■ムラサキ

Lithospermum erythrorhizon

生薬名：紫根（しこん）
薬用部位：根
薬効：皮膚疾患用薬（火傷、痔疾）



ムラサキの名は根の色に由来し、古来、紫色の染料として利用され、紫根染は高貴な深紫色で権威を表す色とされた。紫根は、江戸時代に華岡青洲が創製した火傷の特効薬「紫雲膏」の主原料であり、患部に分厚く塗っておくと痕が残りにくい。あかぎれ、切り傷、しもやけ、痔核などにも用いられる。痔疾用薬の「ボラギノール」は紫根が主成分で、名前はムラサキ科のラテン名である（Boraginaceae）から付けられた。

